

要旨

子育て世代の不安の一つに、子どもの病気があります。子どもは病気にかかりやすく、抵抗力が弱いため重症化することも多く、病気の早期発見、早期治療を支える環境がとても大切です。

太宰府市でも、今年度より入院について小学 3 年生まで無料化が拡充され、子育て中の家庭において大変喜ばれています。

しかし県内には市町村独自の制度として行われているため、自治体によって格差が生じています。

どこに生まれ住んでも等しく安心して医療を受けられるように、県として制度の拡充を行い、市町村を支援していくことを求めます。

理由

- 1、医療費の無料化は子育て中の世帯の方、すべてが歓迎される支援策であること。
- 2、全国で唯一中学校卒業まで医療費を完全に無料化している群馬県のデータを見ると、中学校卒業まで無料化することによって年間一人あたりの受診回数が 17%減少、一件あたりの金額も 15%減っています。
またアトピー性疾患や喘息の慢性的な疾患の受診率が増え、早期受診のよって重症化防止効果が期待できるという見方をしています。

福岡県に対して乳幼児医療制度の拡充を求める意見書（案）

本格的な少子・高齢化社会を迎え、安心して子どもを産み、育てられる施策の拡充が求められています。こうしたなか、乳幼児医療助成制度は公的医療保険制度を補完する制度として全国の多くの県や自治体で実施され、乳幼児の健全な育成と児童福祉の向上に大きな役割を果たしています。

福岡県におきましては、就学前までの医療費助成制度が実施されていますが、現在、県内60自治体の多くで県の助成を上回る助成が実施され無料化が進んでいます。

小学校入学以降の医療費無料の対象年齢は、自治体の政策実施の優先順位や、財政力などによって制度が異なり住む地域でサービス内容に格差が生じています。

誰もが、安心して子育てができるように子育て支援の立場から県の助成制度をせめて小学校卒業までに拡充され、各自治体がさらに無料化を拡充が進められるよう地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

福岡県知事 小川 洋 殿

平成25年6月 日

太宰府市議会